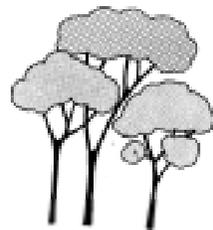


大災害に乗じて「構造改革」 「米軍基地強化」を狙う菅政権



日本の政治のあり方の 根本が問われています



大震災と原発事故の大惨事から4カ月近く経って、なお遅々としてすすまない被災地の復興。さらに原発事故は収束の見通しがたらず、被害が拡大する深刻な事態が続いています。

被災者そつちのけの党利党略政争

ところが、民主党政権も自民・公明両党も震災復興を言うものの本気になって取り組まず、総理退陣をめぐって党利党略の政争にあけられています。「内閣不信任」を突きつけ、突きつけられた政党同士が「大連立」の話まですすめており、被災者、国民から怒りと批判の声が高まっています。

復興口実に悪政を共同で推進

復興を言いながらやっていることは、漁協・漁業者がこぞって反対している「水産特区」構想であり、「復興税」の名目による消費税増税と社会保障の改悪です。さらに、沖縄・普天間基地の名護移設をすすめ、その勢いで衆議院の定数削減や憲法改悪まで視野に入れていきます。震災に乗じて「構造改革」や「日米軍事同盟強化」を上から押し付けるやり方に、被災地をはじめ国民から失望と怒りの声が上がってきています。

被災者の苦しみに心よせ

今求められているのは、上から押し付けの復興政策ではなく、一人ひとりの被災者の苦しみに心を寄せ、生活基盤の早急な復旧を基本とした復興政策でなければ、被災者も被災地も立ち直れるはずがありません。

原子力災害から、国民のいのちと健康を守る課題に取り組む事が求められています。原発についてはすでにスイス、ドイツ、イタリアなどが「原発廃止」自然エネルギーへの転換を決めています。地震多発の国であり、かつ重大な原発事故を起こした日本が、いまなお原発依存政策を捨てきれずにいるというのは、今回の原発事故が、いかに深刻な事故であるか自覚もしていないと厳しく批判されなければなりません。



「知恵を出さないやつは
助けない」の松本復興相に
留任求めた菅首相

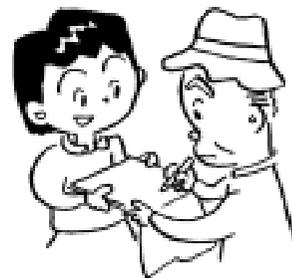
暴言を繰り返し閣僚を辞任した松本龍復興担当相。被災者をないがしろにする上からの復興の押し付けこそ菅内閣が被災者にとっての態度にほかなりません。菅政権には、被災者の思いを踏みにじった反省がありません。

“やらせメール”発覚！
国民の安全より原発再稼働優先、
手段を選ばぬ電力会社

九電玄海原発の運転再開に向けて、経済産業省が6月に開いた佐賀県民への「説明番組」に関係会社の社員らに運転再開支持の“やらせメール”を投稿するよう依頼していた事が発覚。九電社長も認め謝罪。

核兵器のない世界の扉をひらこう

原水爆禁止世界大会成功へ署名のご協力を



福島警告 人類と核兵器は共存できない

東日本大震災・福島原発事故は、今も広い地域を強い放射能で汚染し、福島県民はじめ多くの住民の健康を危険にさらしています。このことは、原子力依存の危険性を示すとともに、それを兵器に使う危険についても改めて強く警告するものとなっています。

原子力発電所のひとつの炉で1年に燃やされるウランの量はほぼ1トン。他方、広島に落とされた原爆は、わずか800グラムで約14万人の人々の命を奪い、被爆から66年になろうとするいまも20万人の被爆者を苦しめています。

この地上にはいまも2万発を超える核兵器が貯蔵され、多くが実際に配備され、発射態勢をとっています。核兵器の脅威をなくすために核兵器全面禁止が緊急の課題となっています。

高まる核兵器全面禁止の声と行動

昨年5月の核不拡散条約（NPT）再検討会議は、189カ国が一致して「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを目標とすることに合意しました。第65回国連総会では、NPT会議の合意の上に、核兵器禁止条約の交渉開始を求めるマレーシア提案の決議が133カ国の賛成で採択されるなど、核兵器廃絶の流れがさらに強まりました。

NPT会議の合意の実現を求めて、2月15日には「核兵器全面禁止のアピール」国際署名キャンペーンが開始されました。パン・ギムン国連事務総長も支持するこの署名は大きく広がり、これまでに700人を超える自治体の首長・議長が賛同しています。

原水爆禁止世界大会に代表を送ろう

8月3日から9日まで、原水爆禁止2011年世界大会が被災地広島・長崎で開催されます。世界大会には、東日本大震災や福島原発事故の被災地の代表や国連代表をはじめ、核兵器廃絶の先頭に立つエジプト、メキシコ、キューバなど非核国の政府代表、アメリカ、ヨーロッパの反核平和団体、中国、韓国、など65アジアの平和団体の代表が一堂に集まっています。

大会は「核兵器のない平和で公正な世界」をテーマに、核兵器のない世界を実現するための道筋や活動について話し合います。主人公は、全国の草の根の代表です。あなたの職場、地域、学園から世界大会へ代表を送りましょう。「核兵器全面禁止アピール」署名を集め、世界大会に持ち寄りましょう。

